

早稲田大学・慶應大学～『英語』の傾向と対策

- ◎ 大学受験科目の中で、最も配点の高い科目となることが多く、早い時期からの学習スタートが、大学合格への最大の近道となります。早慶に合格するには、確かな学習内容と学習方法を知ることが必要です。



〔 早稲田大学 ～英語の入試傾向と対策〕

- 学部によって、傾向が異なります。文学部と文化構想学部は、
- 文学部と文化構想部は、ほぼ同じ出題形式となっており、要約問題に対する対策が必要です。
- 法学部は、長文の内容が抽象的であることが多く、文法語法等の問題も出題されます。
- 商学部は、長文も読みやすく、設問も比較的易しいため、高得点勝負になります。
- 理工学部は、理系にも関わらず、かなり難しい内容が出題され、理系大学の英語では、最高峰のものと言えます。
- 教育学部は、英文が比較的読みやすいものの、設問の数が多いです。
- 社会学部は、正誤問題を含め、全体的に難易度が高い問題が多いです。
- その他の学部も、問題量が多く、難易度にバラつきはあるものの、問題の解答力の正確さとスピードが問われる問題が多いです。



〔 慶應義塾大学 ～英語の入試傾向と対策〕

- 文学部のように、辞書を2冊まで持ち込めるという学部もあります。文学部は、記述問題が多く、記述力を高めていく必要があります。
- 法学部は、長文読解や会話問題が中心です。
- 経済学部は、英作文が多く出題されます。
- 総合政策学部は、文学部と同じ120分の試験時間です。
- 環境情報学部は、総合政策学部とほぼ同じ出題形式です。
- 医学部は、出題形式が豊富で多角的な解答力が必要となってきます。
- どの学部も大学受験生にとっては、分量も難易度も超高く感じられるでしょう。早めの準備が必要です。

